

# Mランド ニュース

笑顔のブラウスかけ寄り 青嵐



編集・発行  
Mランド 益田校  
発行責任者 谷口 ひとみ

〒699-5131  
島根県益田市安富町 3330-1  
TEL 0856-31 5050  
FAX 0856-25 1540  
HP <http://www.mland-masuda.jp/>  
Email [info@mland-masuda.jp](mailto:info@mland-masuda.jp)



皆さまからのご意見ご感想を  
お待ちしております

## 【Mランド歳時記】

### 6月...【Mランドまつり】

26回目を迎えるMランドまつり。そしてファンの集い。Mランドを卒業し、全国各地でそれぞれ道を歩いているたくさんの方々、再びこの地に帰ってきてください。Mランドですごした日々を懐かしみながら、まつりのスタッフとしても参加し、社員や地元の方々

# “Mランドまつり”準備着々



パソコンを駆使して制作した手づくりのポスター。(何度も何度も校正しました)

Mランドまつりも今年で二十六回目を迎えました。テーマは「かっこいい」です。世の中にはいろいろなかっこよさがあります。姿かたち、スマートフォン、美しさ、優しさ、無駄をしないなど様々な角度から、かっこよさを追求していきます。

今回は、新しくできた「瞑想の道」コースでのウォークラリーを行います。「お客様にかっこよくチャレンジしていただきたいと思ひます。また、一人の大合唱やうまいものコーナーも趣向を凝らし、訪れた人全員に楽しんでいただける企画となっております。恒例のビンゴゲームは、今、大人気のことものお仕事テーマパーク「キッザニア東京」へのご招待(十名様)を中心に魅力あ

る賞品を用意しております。その他にも「ときときキャンプ」「ハマカーン」のステージなど、きつと一日得する「Mランドまつり」をどうぞご期待ください。

←教習の合間を使い、準備作業に余念のないインストラクター。



→Mランド入口に掲げた横断幕。

合宿で二週間だけの滞在でしたが、後から一番の参加者だと聞いて驚いていますが、とても光栄に感じております。MDSでは三種の神器(お茶席、トイレ掃除、ハガキを書く)を教えていただきました。トイレ掃除をするとお金持ちになるそうなので、今でも続けております。

卒業するときには、MDSを離れがたく、いつか立派な人間になってここにまた戻ってきたいと思ひました。願ったことは、いつか叶うものですね。卒業生の同志にお会いできるのを楽しみにしております。

←小冊子「サンキョーレター集その一」からの抜粋した、重美塾初代塾長の青木社長(当時)との思い出の写真。

大阪大学法学部四年の原田亮です。Mランドで得たものは、一生の思い出とかけがえない仲間です。同世代の別々の道を進んでいる男女が教習という長い期間、同じ目標に向かって生活を共にするなんてことは、今までもそしてこれからもないだろう。そんな彼らとすぐに仲良くなれる環境をMランドは提供してくれたので、合宿中は本当にみんなが家族のような存在だった。免許取得後、みんなに会いに行くため、バイクで日本一周するくらいだ。

今回の「Mランドまつり」もそんな仲間とまた一生の思い出をつくりにいきたいと思ひます。いろんな

生への思い出を提供してくれるMランド、最高の教習所です。

初めまして、そしてお久しぶりです。東京でテレビや舞台などに出演中の穴戸優と申します。Mランド卒業から二年。こうして毎年この地にお邪魔する機会を設けていただいていることを大変幸せに思ひます。まつり当日、皆様とお会いできることを楽しみにしております。

卒業生 穴戸 優さん

「Mランドまつり」に卒業生の作品展開催  
私は、Mランド 2002年6月の卒業生です。5月末から6月にかけて学んだ益田の地は、とても良い季節で、毎日が楽しかった思い出でいっぱい。私は洋画家です。今年の6月14日の「Mランドまつり」当日、瞑想室2階のギャラリーにおいてロマンチックで楽しい小さな絵をたくさん並べて、2回めの作品展を開催しますので、是非、皆さん見てください。お待ちしております。どうぞよろしく...

五月初めにMランドを巣立つていかけた大原昌子さんから、お便りが届きました。

「初めてMランドに来た時は、二週間免許が取れると思ひ、期待で胸がワクワクしていました。入校してみると、私にとって免許取得は大変なことが多くあり、一か月の滞在になりました。

学科の模擬テストでは、同じころを何回も間違えて、なかなか受からず、落ち込む日が続きました。運

転の方でも、苦手な課題で何度もひっかかり、なかなか次に進めませんでした。そんな時、私の周りにいた、たくさん教習生が声をかけてくれたり、一緒に勉強をしてくれたり、助けてくれました。おかげで辛かったことも何とかすべてクリアでき、すべてが思い通りに変わりました。本当にありがとうございました。

Mランドに来て印象に残ったことは、たくさんの自然と施設があったことです。さらに、朝の掃除や車の掃除などに参加してMマナーがもらえ、買い物や岩盤浴などが楽しめたことです。

最後になりましたが、一か月の間に会った多くの教習生の人、指導していただいたインストラクターの皆さん、受付やミロ、食堂の皆さん、本当にお世話になりました。ありがとうございました。

入校当初からしばらくの間は、大人しく少し弱々しい印象だった大原さんが、一か月の滞在中、大きく自信をつけて変わられた様子は、私たちがスタッフも側で見ていて、手に取るように分かりました。同時期に滞在されていた、大原さんにとってはお母さんとも言えるような年代の女性たちが、時に叱り、時に励まし、家族のような関係を築かれていたことが大きな支えとなっていたに違ひありません。

『勇気と希望』をまた一つここに届けることができました。

→卒業検定に合格し、中島室長に抱きつき喜ぶ大原さん。



# 松岡相談役の挑戦



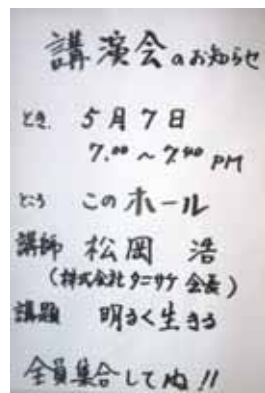
Mランドの 松岡 浩 相談役

## 「前立腺がん」

一年前に前立腺がんがんと診断され「すでに手遅れで、あと三年の命」と医師から宣告されました。がんは転移をしている可能性が大なので、入院をして精密検査を受けました。その結果、転移なしと分かり、兵庫県立粒子線医療センターで、三月九日から五月八日までの二か月間、陽子線による治療を受け完了しました。前立腺がんを「天からの試練」として受けとめるのではなく、天から「二か月間の休養」を与えられたと心のギアチェンジをし、医療センターでは「センターの太陽」を目差して、明るくイキイキを心がけ、入院患者の皆様に言葉をかけ続けてきました。陰気になっている人には「体は病気でも、心まで病気になるってはいけない」と励まし、陽気な人には、川柳で「その陽気 勤務先でも 発揮しろ」と言ってみたり「前立腺がんクラブを作りましょう」などと呼びかけたりしました。おかげで私の周りには人がいっぱい集まるようになり、和やかに笑って過ごしました。治療期間中に、兵庫県内で五回も講演し、特に医療センターで退院前夜、患者仲間「明るく生きる」と題して語り、大いに笑っていた。「話の点滴をしてもらった」と喜ば

れたことは、一生の思い出となることでしょう。聞いてくださった皆様ありがとうございます。私より、先に退院された和歌山の六十九歳の男性から手紙をいただきました。「わずかな期間ではありませんでしたが、松岡様とお会いでき、いろいろとご配慮をくださいましたことは、病棟内の雰囲気と一条の光明を見させていただいた心地で、今も興奮が冷めません。出合いの不思議をのみしめながら、頂戴をいたしました、ご本を拝読させていただいています。松岡様はその後も、ややもすれば鬱積しがちな闘病中の皆様方に、明るく人生を生きていく希望と勇気を与えてくださっているものと確信をいたしております」(以下略)

前立腺がんになり良かったことは、横浜市にいる小学一年生の孫が、私の岐阜大学病院の葉袋を見て「私が大きくなったら岐阜大学に入り、医者になっておじいちゃんを病気を治す」と言ってくれたことで、うれしくて涙が止まりませんでした。もう一つは、人は死ぬんだということが、おぼろげではなく、はっきりと分かり、「その日が確実に近づいている。一日一瞬に心をこめて！」の教えの実践を決意できたことです。退院後の私が目差すものは、この体験を生かして、前立腺がんで悩む人々を元気づける「前立腺がん無料コンサルタント」となることです。



患者さんが手書きしたポスター。



本館裏の庭に建つ「事上練磨」の木柱。

## Mランドマスター ⑪

### 「事上練磨」

Mランドのコースのあちこちに、言葉を書いた木柱が建ててあります。今日は、その中から「事上練磨(じじょうれんま)」について、ご紹介いたします。

も冷静に対処することができるようになります。これが「事上練磨」です。日々の仕事、毎日の生活の中で自分を磨くという考え方は、勿論、書物を読み知識を深めることは重要なことです。それを自分の中の血や肉に変えるためには、事上つまり、事実の上において体感する場を求めることが重要になるのではないのでしょうか。コツというものは、本を読んだからといってつかめるものではないですね。実践を積み重ねることで、やっと自分のものにできるのです。Mランドでは、トイレ掃除や校内掃除、またお茶などのさまざまな体験を通して、新しい何かを発見し、感じとってもらっています。失敗を恐れずに、どんどん前に向かっていきましょ。そうして培っていったものは、必ずや自身の宝になるに違いありません。これこそが「事上練磨」の極意なのでしょう。



患者さんの前で語る松岡相談役。

## 卒業生は今

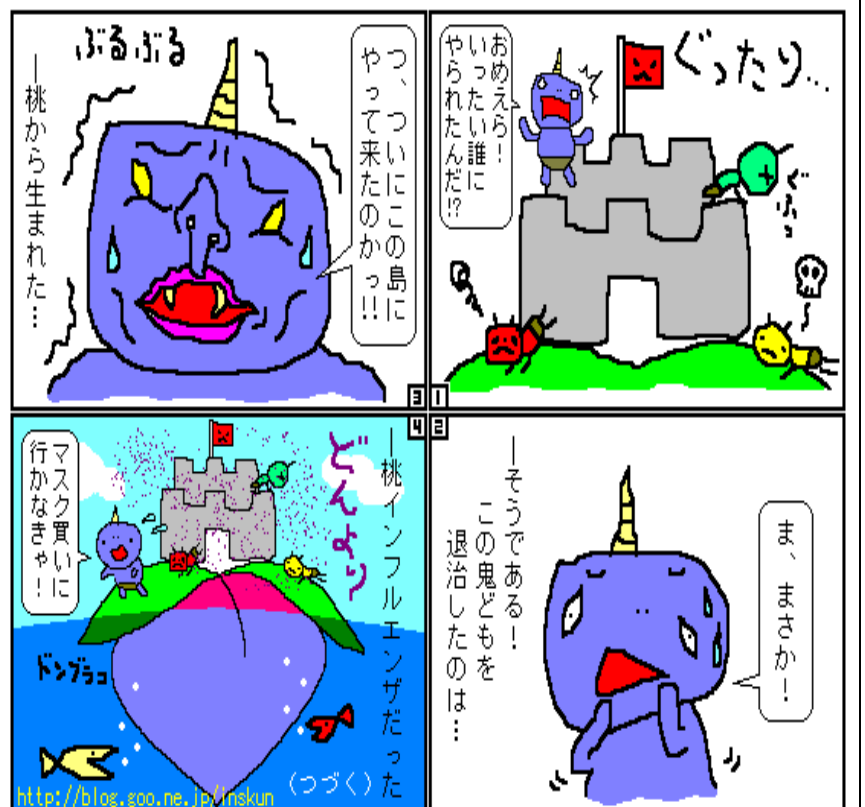
五月の新緑が眩しい休日、Mランドに懐かしい笑顔が見られました。二年前にMランドを卒業された白石真帆さんです。

白石さんは、愛媛県の河原学園愛媛医療福祉専門学校を卒業後、現在福祉関係の会社へ就職され活躍中です。ゴールデンウィークに高速道路通行料、休日千円を利用して旅行をと、Mランドを訪ねてくださいました。その白石さんからMランドにメッセージをいただきました。

「久しぶりに訪れてすごく懐かしいのに、すごく新鮮な感じがしています。そして、今いるゲストの皆さんが、知らない私に笑顔で挨拶を交わしてくれる、本当にすごい場所だと改めて感じました。ここには、社会に出て役立つことのヒントがたくさんあり、私の友人にもMランドを訪ねてもらいたいので宣伝しまくりです！」(笑)

白石さんありがとうございました。私たちも、白石さんの成長された姿を拝見することができ、本当に嬉しく思います。これからも共に成長していきましょう！(内谷シ)

## Ver.30 《ももたろう第6話》 作：いんすん



## 「Mランドファンの集い」講演会

平成二十一年六月十三日(土)午後四時より  
Mランド・コンベンションホールにて  
講師 入江 富美子(監督/撮影・構成・編集、作詞・作曲)  
プロフィール

二児の母として子育てをしながら、アロマセラピスト、企画(講師、イベント、セミナー、グッズデザインなど)、制作(絵本など)を行なっている。2005年大晦日の夜、突然感謝することの大切さに気がつき、「宇宙に感謝の量を増やしたい！」と一念発起し、主婦兼映画監督の道に入る。撮影、インタビュ、映像編集、そして挿入歌を作詞・作曲し、その上、ボーカルにも挑戦。こうして、仲間とともにつくりあげた山元加津子さんのドキュメンタリー映画「1/4の奇跡」本場のことだから」は各地で反響を呼んでいる。現在は、映像制作のかたわら、監督、ミュージシャンとして、歌ったり講演をして全国を飛び回っている。



→河原学園担当の内谷インストラクターとの再会を喜んでる白石さん。

## 編集後記



鮮やかな緑(青)が、眩しく溢れる中で「Mランドまつり」を待ちわびるMランド。(則)